

平成 27 年度事業報告

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

1 事業概要

平成 27 年度の畜産情勢は、飼料費を含む生産資材の高騰、労働力・後継者問題、家畜衛生対策、TPP 問題等、畜産経営を取り巻く経営環境は、以前として厳しい状況にありました。

特に酪農・肉用牛生産においては、農家戸数、飼養頭数の減少が著しく、生乳生産基盤の弱体化、子牛価格の高騰により肥育経営への影響等、その対策が課題となりました。また、TPP 問題につきましては、10 月に大筋合意、2 月に最終合意がなされ、畜産にとっては非常に厳しい交渉結果となりました。国では、国際競争力強化のため「農政新時代」を掲げ、攻めの農林水産業への転換、経営安定・安定供給のための施策等を展開し、畜産・酪農の収益力、生産基盤の強化を推進していくこととなりました。

このような状況にあって、当協会は「公益社団法人」としての社会的使命・役割を十分に認識し、県民・消費者と畜産経営者、関係団体・行政機関等との密接な連携に努め、安全で信頼される県産畜産物が安定的に供給されるよう、畜産経営安定対策や家畜・畜産物の衛生対策、飼養管理や経営技術指導等による生産性の向上、畜産及び畜産物への理解醸成・消費拡大事業等、様々な事業に取り組んでまいりました。

また、ナイスポークチバ推進協議会等、10 団体の事務局を務め、生産者、関係機関・団体等との連携・協力を得ながら円滑な団体運営・効率的な事業推進に努めてまいりました。

2 会員及び役職員の構成（平成28年3月31日現在）

（1）会員

区 分	計
県域畜産団体	21
市町村	51
自衛防疫組織	50
農協・会社等	29
生産者組合等	15
賛助会員	5
合計	171

（2）役員

（単位：名）

会長	副会長	専務理事	理事	監事	計
1	5	1	10	3	20

（3）職員

（職種別）

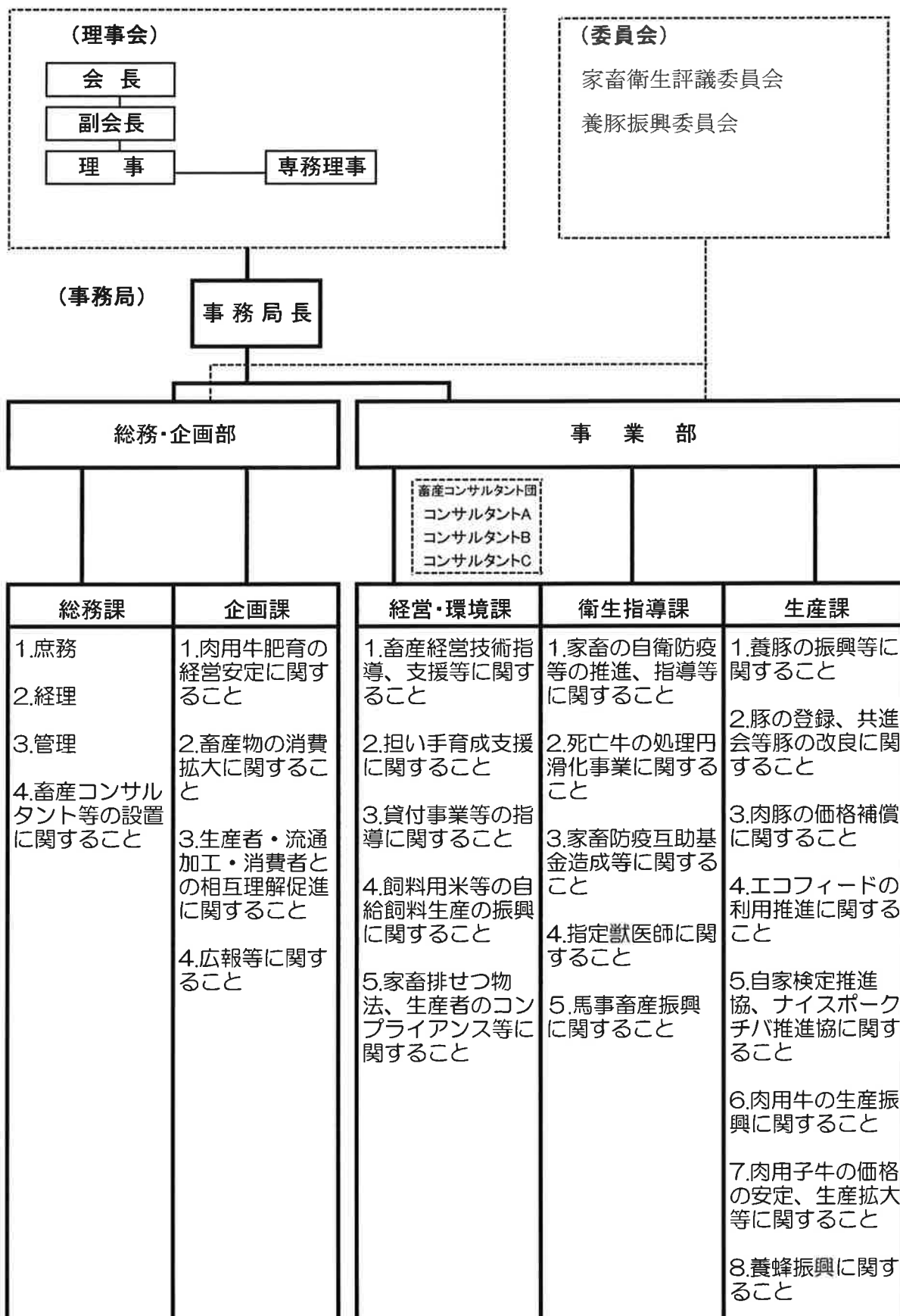
（単位：名）

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	技術職員	臨時職員	合計
人数	5	4	1	5	15

（所属別）

（単位：名）

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事・事務局長	1	—	1
総務・企画部	5	2	6
事業部	2	5	8
合計	8	7	15



3 会議の開催

(1) 監事会

期 日	場 所	内 容
平成27年6月3日	K & T 千葉ビル	平成26年度業務の執行状況及び収支決算について

(2) 理事会

期 日	場 所	内 容
平成27年6月8日	ホテルラザ 菜の花	1) 平成26年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 定款の一部改正について 3) 諸規程の一部改正について 4) 会員の退会について 5) 平成27年度会費の額及び徴収方法について 6) 役員の補欠選任について 7) 役員の報酬額について 8) 平成27年度定時総会について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
平成27年6月22日	ホテルラザ 菜の花	1) 副会長、専務理事の互選について
平成28年3月14日	ホテルラザ 菜の花	1) 平成28年度事業計画及び収支予算について 2) 平成28年度借入金最高限度額及び借入先の決定について 3) 会員の退会について 4) 公益社団法人千葉県畜産協会特定個人情報等取扱規程（案）の制定について 5) 諸規程の一部改正について 6) 肉用子牛生産者補給金交付業務規程の一部改正について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

(3) 総 会

期 日	場 所	内 容
平成27年6月22日	ホテルラザ菜の花	報告事項 1 平成26年度事業報告について 2 平成27年度事業計画並びに収支予算について 議案 1) 平成26年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 定款の一部改正について 3) 平成27年度会費の額及び徴収方法について 4) 役員の補欠選任について

(4) 家畜衛生業務評議委員会

平成27年6月1日	ホテルラザ菜の花	1) 平成26年度家畜衛生業務関係事業の実績について 2) 平成27年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について 4) 国及び県の主な家畜衛生対策事業の実施状況について
平成27年12月24日	ホテルラザ菜の花	1) 平成27年度家畜衛生業務関係事業の進捗状況について 2) 平成28年度オーエスキー病清浄化支援対策について
平成28年3月2日	ホテルラザ菜の花	1) 平成27年度家畜衛生業務関係事業の実施状況について 2) 平成28年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 市町村等自衛防疫活動支援事業について 4) 牛病及び豚病のワクチン接種に係る農家負担額について 5) その他

(5) 養豚振興委員会

期 日	場 所	内 容
平成27年7月28日	きぼーる	1) 平成27年度千葉県肉豚共進会について 2) 平成27年度養豚経営安定対策事業（全国肉豚）について 3) 原種豚の認定及び助成について 4) 系統造成豚について 5) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 6) その他
平成27年12月1日	千葉県森林会館	1) 平成27年度千葉県豚共進会の終了と来年度について 2) 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）について 3) 次期系統造成豚の普及推進について 4) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 5) その他

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

I 畜産経営を支援する事業

1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）公益

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産に対する理解増進等畜産関連公益活動体制の強化を図る事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

2 畜産コンサルタント等設置事業（県）公益

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

3 会報誌編集発行事業（協会単独）その他

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第33号～35号 各1,700部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）公益

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

(1) 畜産コンサルタント団の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	フォローアップ 指導員
人数（名）	4	2	31	11

(2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

① 総合委員会：平成27年7月13日

② 専門委員会：平成27年7月13日、平成27年10月19日、
平成27年11月10日、平成28年1月26日

(3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パーソナルコンピュータをリースした。

(4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォローアップ 指 導	計
戸数(戸)	1 6 (酪農)			1 0 (酪農)	2 6
件数(件)	1 6	1 6	1 6	3 0	7 8

② 地域支援指導

畜産経営技術に関する研修・意見交換等を行う場としての経営セミナー等を12回(参加者:501人)開催し、地域の経営体集団に対して経営改善のための支援を行った。

指導実績	開催期日	開催 場所	人数 ()は農家	内 容
①酪農レディース講習会 (海匠地域)	平成27年 6月26日	旭 市	26人 (19人)	① 哺育を考えよう 日本全薬工業(株) 松田 廉 ② 情報提供 家畜改良事業団 板橋 完
②WCS用稲 現地検討会 (安房地域)	平成27年 7月23日	館山市	36人 (17人)	① WCS 用稲専用品種の実証展示について「リーフスター」「たちすがた」「コミカリ」比較検討 ② WCS 用稲の特徴について ③ 県内のWCS 用稲栽培状況について
③自給飼料研修会 (香取地域)	平成27年 8月6日	多古町	34人 (9人)	① トウモロコシ二期作の利点及び適切な品種選定について 畜総研 青木 大輔 ② 県内の稲 WCS を利用した飼料メニューについて 畜総研 石崎 重信 ③ 汎用型収穫機の実演 多古町 小澤 弘喜
④WCS 用稲生産・利用推進 研修会 (安房地域)	平成27年 9月18日	南房総 市	45人 (12人)	① 稲発酵粗飼料について 畜総研 名取 美貴 ② 安房地域における WCS 用稲の今後の取組について 安房農業事務所 北見 寿昭 ③ 現地検討 専用品種「たちすずか」について
⑤酪農研修会 (海匠地域)	平成27年 9月30日	旭市	23人 (12人)	① 人工授精における人的要因の見直しに向けて 農研機構畜産草地研究所 渡邊伸也 ② 情報提供「入牧案内」 畜総研 進藤 彰

				畜総研・市原 加藤 久美子
⑥ながいきファームフェスタ (長生地域)	平成 27 年 11 月 23 日	茂原市	56 人 (24 人)	○ 酪農家と消費者との意見交換
⑦稲 WCS 生産 利用研修会 (君津地域)	平成 27 年 11 月 24 日	袖ヶ浦 市	47 人 (21 人)	① 君津地域での WCS の生産利用取 組み状況 君津農業事務所 新垣 裕子 ② 乳牛への稲 WCS の給与技術 畜総研 村中 洋美 畜総研 村田 美里 ③ 「飼料専用品種の品種特性と早晚性」 畜総研 名取 美貴
⑧自給飼料研 修会 (印旛地域)	平成 27 年 12 月 15 日	佐倉市	24 人 (4 人)	① トウモロコシ・ソルガム混播栽培 における収量制限要因と安定生 産技術 畜総研 行川 貴浩
⑨酪農経営セ ミナー (安房地域)	平成 28 年 1 月 13 日	館山市	84 人 (45 人)	① 良質堆肥の生産と土作り 畜産環境アドバイザー 本多 勝男 ② 肥料成分を考慮した家畜ふん堆 肥の利用について 県担い手支援課 山本 晃弘
⑩酪農研修会 (香取地域)	平成 28 年 2 月 4 日	香取市	44 人 (14 人)	① 獣医師の視点から見た TMR センター 県農業共済連 久保田 開 ② ファームサポートかとり(株)について ファームサポートかとり(株) 長嶋 透
⑪稲 WCS 研修 会 (山武地域)	平成 28 年 2 月 15 日	東金市	30 人 (12 人)	① 茎葉型稲 WCS の泌乳牛への給与 について 畜総研 村中 洋美 ② 専用品種の栽培管理ポイント 山武農業事務所 板倉 里絵 ③ 山武地域の稲 WCS 生産・利用状況 につて 山武農業事務所 中山 好子
⑫放牧研修会 (安房地域)	平成 28 年 3 月 8～9 日	鴨川市 南房総 市	52 人 (22 人)	① 放牧実施酪農家に対する現地技 術指導 日本草地畜産種子協会 梨木 守 サージミヤワキ(株) 清水 亨 ② 安房地域放牧研究会の活動について 安房農業事務所 中原 祐樹 ③ 水田・里山・耕作放棄地に放牧を 進めるために 日本草地畜産種子協会 梨木 守 ④ 東北での放牧の取組の紹介 サージミヤワキ(株) 菊池 泰則 ⑤ イノシシの農作物被害対策とし

				ての放牧ゾーニングのためのシ バ型草地化技術の確立 畜総研 行川 貴浩 ⑥ 安房地域における放牧推進の展 望について 畜総研 村田 宏之
--	--	--	--	---

- (5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備
 畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報の
 ホームページによる提供を行った。

5 貸付事業指導等事業（（公財）畜産近代化リース協会）**その他**

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果
 的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、61基について確認調査
 並びに指導を実施した。

1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	千葉県酪連	1	7	千葉酪農協	2
2	県みるく農協中央支所	4	8	八千代酪農協	2
3	県みるく農協東部支所	5	9	西葉酪農協	1
4	県みるく農協南部支所	12	10	新生酪農クラブ	1
5	千葉県三和酪農協	10	11	全農千葉県本部	6
6	東金酪農協	3	計		47

2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	33
2	生乳生産合理化施設	15
3	畜舎環境改善機械施設	11
4	生乳処理流通施設	2
計		61

6 畜産特別資金等推進指導事業（（公社）中央畜産会）**公益**

大家畜改善緊急支援資金、大家畜緊急支援資金、養豚改善緊急支援資金
 及び養豚経営緊急支援資金借受者の経営改善に資するため、年2回の県支
 援協議会（本協会事務局）を開催するとともに、現地調査等を実施し、経
 営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

また、現地調査指導等は生産者並びに融資機関を対象に行い、現状の問
 題点等について聞き取り助言指導を行った。

緊急支援7経営（肉用牛1、養豚6）

改善緊急支援4経営（酪農1、肉用牛1、養豚2）

7 肉用牛経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）公益

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭のための奨励金の交付、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、飼料収穫、除角など）を推進した。

中核的担い手育成増頭対策	千葉県肉牛生産農業協同組合 増頭奨励金 10頭
肉用牛ヘルパー活動推進	3カ所（安房・市原・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進

8 エコフィード・TMRコーディネート推進事業（県）公益

配合飼料価格の高止まりから食品廃棄物の利活用に向けた関心の高まりとともに利用度もかなり進みつつあるが、原料も多岐に亘り、畜種毎にその利用状況も異なることから、食品残さの資源がエコフィードやTMR原料として、十分活用がなされていない状況にある。

このような状況を少しでも改善するため、コーディネーターを設置し、地域における食品搬出業者、エコフィード製造施設、生産者、関係者との情報交換により未活用資源の発掘とその利用を推進し、千葉県畜産の生産性の向上と飼料自給率の向上を図った。

9 畜産現場における障がい者の参画推進支援事業（畜産経営支援協議会）公益

畜産現場における障がい者の参画実態と参画を促進するための課題等を明らかにするため、千葉県内の就労を受け入れる側の畜産経営体等における就業環境や就業条件及び畜産現場への就労を希望する障がい者への支援を行う特別支援学校等における取組や課題等に関するアンケート調査（畜産関係（畜産農家・畜産関連施設等）11件、支援関係（障がい者支援施設・特別支援学校等）4件）を実施した。

Ⅱ 家畜衛生向上に関する事業

1 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国庫・公募事業）公益

牛のヨーネ病とオーエスキ病の清浄化対策、牛白血病の感染拡大防止対策及びアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上及び家畜の損耗防止を図り、もって畜産の健全な発展に努めた。

（1）牛ヨーネ病清浄化支援対策

ヨーネ病発生農場の清浄化を図るため、ヨーネ病 PCR 検査で定量判定以下の DNA が検出された乳牛の自主とう汰に対して助成した。

・ヨーネ病検査費 2 頭

（2）豚オーエスキ病清浄化支援対策事業

農場の抗体検査による清浄度がステータスⅡにある地域を対象に全戸、全頭検査を推進するため、ワクチン接種に対し助成するとともに農場の清浄度を把握する抽出検査及び繁殖豚全頭検査への助成並びに感染豚摘発農場における清浄化推進のため感染豚のとう汰に対し助成した。

オーエスキ病ワクチン接種・検査等実績

年度	ワクチン接種	清浄性確認検査	感染豚とう汰	備考
27	1,334,180 頭	4,930 頭	333 頭	
26	1,338,800 頭	5,498 頭	376 頭	

（3）牛白血病感染拡大防止対策

牛白血病の感染拡大防止を推進するため、抗体検査等に対して助成した。

・抗体検査 872 頭

・対象農家 12 戸（中央家保管内 9 戸、南部家保管内 3 戸）

（4）疾病発生・流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

年度	アカバネ病（生）	異常産（3 種混合）	備考
27	4,465 頭	9,097 頭	
26	4,639 頭	9,353 頭	

2 家畜防疫互助基金造成等支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病（口蹄疫・牛肺疫・牛疫・アフリカ豚コレラ・豚コレラの 5 疾病）の発生に備え、牛及び豚飼養者による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金（(独)農畜産業振興機構助成）を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図るものである。

本年度は新事業期間（平成 27～29 年度までの 3 か年）の初年度にあたり、基金設計額の確保に向け、加入促進に努めた。

今期（平成 27 年度）の加入状況

年度	牛			豚		
	戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
27	640 戸	63,840 頭	9,781,210 円	175 戸	566,731 頭	23,672,270 円
前期	749 戸	68,098 頭	12,765,320 円	199 戸	567,833 頭	32,507,080 円

3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫・公募事業）公益

BSE 検査が必要な 48 ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費の一部を助成した。

なお、本年度から BSE 検査月齢が 24 ヶ月齢以上から 48 ヶ月齢以上に引き上げられた。

・輸送費、適正化製処理費 798 頭

4 馬飼養衛生管理特別対策事業（（公社）中央畜産会）その他

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が大きいことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

(1) 馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 1 回 7 名出席
日時：平成 27 年 10 月 27 日（火） 場所：ホテル「うさぎ菜の花」（千葉市）

(2) 馬飼養衛生管理技術講習会の開催 1 回 34 名出席
日時：平成 28 年 1 月 15 日（金） 場所：成田国際文化会館（成田市）
演題・講師

①馬の呼吸器疾患と飼養衛生管理について

講師：JRA 美浦トレーニング・センター 競走馬診療所 臨床獣医役 吉原英留

(3) 地域馬獣医療技術基礎調査

乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策及び伝染性疾患の清浄化等に関する調査」を実施した。

調査対象戸数 39 戸、回答戸数 19 戸（48.7%）から回答が得られた。

(4) 馬飼養衛生基礎技術実習 1 回 7 名出席
日時：平成 28 年 3 月 15 日（火） 場所：船橋競馬組合（船橋市）
講義：馬飼養衛生に関する臨床実習について（馬の取扱、診断・治療について）
講師：船橋競馬獣医師会 会長 武田 和憲

5 育成馬等予防接種推進事業（（公社）中央畜産会）その他

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競馬場入きゅう

前の育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

年度	3 種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎 ワクチン	計
	1 歳馬	2 歳馬	計	1 歳馬	2 歳馬	繁殖牝	計	2 歳馬	
27	16 頭	20 頭	36 頭	21 頭	13 頭	6 頭	40 頭	17 頭	93 頭
26	6 頭	40 頭	46 頭	28 頭	22 頭	5 頭	55 頭	26 頭	127 頭

6 生産段階における防疫強化支援事業

(馬インフルエンザ等防疫強化特別対策事業) ((公社) 中央畜産会) **その他**

馬伝染性貧血の清浄化を図るために必要な基礎情報を得るため、在来馬等について飼養及び衛生状況の実態調査(10カ所)等を実施した。

7 生産地等における馬防疫強化対策事業

(馬伝染性疾病防疫推進対策事業) ((公社) 中央畜産会) **その他**

競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図った。

年度	馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
27	759 頭 (乗用馬 759 頭、小格馬等 - 頭)	6 頭 (2 頭×3 回接種)
26	681 頭 (乗用馬 681 頭、小格馬等 - 頭)	6 頭 (2 頭×3 回接種)

8 地域自衛防疫強化特別対策事業 (家畜衛生推進協議会) **その他**

生産現場における自衛防疫体制の強化を図るため、生産者参加による防疫演習の実施、特定悪性慢性感染症の清浄化の推進、これら防疫措置の基礎となる飼養衛生管理基準の徹底・啓発等の事業を行った。

区分	行事名等	実施月日	実施場所	概 要
地域防疫演習	HPAI 防疫対応	11 月 6 日	成田エクセルホテル東急	参加者 40 名 内生産者等 20 名
県域防疫演習	HPAI 防疫演習 (県演習に共催)	11 月 17 日	東金中央公民館 林ふ卵場跡地	参加者 224 名 内生産者等 8 名
慢性感染症清浄化支援対策	牛白血病清浄化推進実証モデル	随時	酪農：1 戸 (南部家保管内)	初乳加温処理等の 対策効果を調査
	牛マイコプラズマ性乳房炎対策モデル	年 2 回検査	酪農：36 農場	マイコプラズマの スクリーニング、 分離同定
飼養衛生管理基準 啓発推進対策	飼養衛生管理基準に係る研修会	9 月 29 日	千葉市生涯学習センター	参加者 54 名
	啓発資料の作成	1 月	県内酪農家	飼養衛生管理基準 (牛編)：1060 部

9 農場HACCP認証普及推進支援対策事業（（公社）中央畜産会）**公益**

農場 HACCP の普及促進を図るため、農場 HACCP 推進農場の指定及び認証農場の認証に向けて取組む農場に対して、技術指導者を派遣するなど効果的な支援・指導に努めた。

（1）普及推進協議会等の開催

①普及推進会議：6回

②地域取組促進活動：5回

（2）認証構築指導推進事業

①農場 HACCP 構築指導に係る意見交換会の開催：25回

②農場 HACCP 構築指導事業

対象農場：酪農2農場、養豚21農場、採卵鶏2農場

農場 HACCP 指導員：13名

指導回数：延270回

10 農場HACCP認証審査体制基盤緊急整備事業（（公社）中央畜産会）**公益**

公益社団法人中央畜産会の委託を受け、県内における農場 HACCP 認証基準に基づいた、農場 HACCP の構築に取り組む農家に対して、専門家による農場 HACCP の認証制度の普及及び認証農家における成果の検証を行い、地域に農場 HACCP 取組の中核となる農家への支援に努めた。

（1）認証制度説明会 2回 延121名受講

（2）認証農場の成果の検証

①推進委員会3回

②アンケート調査

11 野性獣衛生体制整備緊急対策事業

（家畜衛生対策推進協議会 事務局：中央畜産会）**その他**

野性獣の被害低減対策のため、畜産分野での情報発信体制を地域に構築・整備するとともに、これらの野生獣の衛生実態を把握し、もって畜産経営の健全な発展に努めた。

（1）地域衛生技術連絡協議会：3回

（2）野生獣の衛生実態等調査

シカ：15頭9項目（E型肝炎、サルモネラ感染症、カンピロバクター感染症、O-157、トキソ抗体検査、日本脳炎、BVD、クリプトスポリジウム、住肉胞子虫）

イノシシ：17頭8項目（E型肝炎、サルモネラ感染症、AD、トキソ抗体検査、豚丹毒抗体検査、PED中和抗体、日本脳炎、豚パルボ）

12 豚流行性下痢（PED）まん延防止体制支援強化事業

（（公社）中央畜産会）**その他** 新規

国の防疫マニュアルに基づき地域の自衛防疫組織を活用し、畜舎等の消

毒の実施、母豚への効果的な予防接種の推進などの防疫体制を強化するとともに防疫措置を徹底し、PEDのまん延・再流行の防止に努めた。

区分	実施月日	実施場所	概 要
PED 地域対応 推進会議	7 月 29 日	横芝光町文化会館	指定獣医師等 18 名
	2 月 9 日	ヒューマンプラザ黄鶴	指定獣医師等 21 名
PED まん延防止 衛生指導対策	随時	対象農場：78 農場 (13 市町)	指定獣医師 17 名により、延 813 回巡回指導。
PED まん延防止 モデル事業	随時	対象農場：3 農場 (旭市、東庄町、香取市)	PED の清浄性確認検査として 615 検体検査。

1 3 市町村等自衛防疫活動支援事業（協会単独）公益

当協会で実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫協会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

（活動支援助成金交付先）

- ①市町村家畜防疫会 48 団体
- ②地域家畜防疫獣医師会等 3 団体及び千葉県獣医師会

1 4 特定疾病損耗防止事業（協会単独）公益

下記疾病に対して予防接種を推進した。

区 分	27 年度	26 年度
牛伝染性鼻気管炎ワクチン（混合）	2,806 頭	2,408 頭
豚丹毒生ワクチン	2,612 頭	2,800 頭
日本脳炎・パルボワクチン	370 頭	328 頭
オーエスキー病	77,910 頭	3,890 頭

1 5 養鶏研修会（協会単独）公益

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策に資するため、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に研修会を開催し、養鶏振興の一助に資した。

（研修会概要）

- ・開催日時：平成 27 年 11 月 26 日（木）
- ・開催場所：千葉市生涯学習センター

演題 1：鳥インフルエンザの疫学と防疫

講師－農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所
ウイルス・疫学研究領域長 筒井俊之 先生

演題 2：米国における鳥インフルエンザの発生状況

講師－日本レイヤー株式会社
代表取締役 橋本 亘 先生

- ・出席者：養鶏農家及び関係機関・団体等 89 名
- ・共催及び後援機関・団体：10 団体

Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

1 畜産関係団体調整機能強化事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」の活動を支援した。

また、本県の畜産・畜産物の理解と消費拡大を図る「千葉県畜産フェア」及び地方競馬の振興のため千葉県畜産賞（冠レース）を船橋競馬場で実施した。

2 畜産フードチェーン連携推進事業（協会単独）**公益**

消費者の県産畜産物に対する理解促進を図るため、県産豚肉を使った加工体験教室（ウインナー作り）を市町村及び関係団体の協力により印西市花の丘公園で親子を対象に実施した。

3 畜産フェア（協会単独）**公益**

消費者に千葉県の畜産・畜産物に理解を深めて頂くため、第9回目の畜産フェアを10月24日（土）船橋競馬場ふれあい広場において開催した。

県内畜産関係の26団体が出展し、県内の畜産の現状、牛乳、牛肉、豚肉、卵等試食販売、骨密度測定を行いました。また、来場者には県内の畜産品等を試食して頂き、協賛いただいた団体から参加者に豪華な畜産品をプレゼントした。

IV 畜産物の品質向上を図る事業

1 養豚改良対策事業 その他

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

1) 登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 180頭、子豚登記 330頭、一代雑種血統証明 6頭
肉豚証明 298頭、移動証明 9頭

2) 優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会）

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。 遺伝資源保存指定種豚場 4場

3) 原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 4農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 111頭・子豚登記 120頭

2 千葉県産オリジナル豚肉生産体制強化事業（県）その他

（1）系統豚相性診断事業

本県で現在開発中のランドレース種の系統豚の能力を最大限に活かせる経済効率の高い相性の良い大ヨークシャー種とデュロック種の最適な組合せを見つけるために、養豚現場で相性診断を実施した。

ランドレース種 調査農場 4場 12腹

LW種 調査農場 2場 8腹

（2）系統豚維持増殖推進事業

系統造成中のランドレース種の普及を図るため、能力の優れた繁殖素豚の選抜、さらには繁殖豚の個体能力を客観的に評価するため繁殖能力等の調査を実施した。

調査農場 4場 繁殖能力調査 36腹・調査子豚数 166頭

選抜頭数 156頭

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（（独）農畜産業振興機構）公益

（１）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

①平成２７年度生産者補給金交付契約締結者 １６０人

②事務委託先契約締結数 １１件

1) 契約肉用子牛の個体登録 (単位：頭)

区分 品種	平成 27 年 1 月 1 日～ 3 月 31 日	平成 27 年 4 月 1 日～ 6 月 30 日	平成 27 年 7 月 1 日～ 9 月 30 日	平成 27 年 10 月 1 日～ 12 月 31 日	計
黒毛和種	282	234	258	219	993
褐毛和種	—	—	—	—	—
その他肉専	1	4	3	9	17
乳用種	1,020	717	707	640	3,084
交雑種・乳	2,613	2,656	2,402	2,020	9,691
計	3,916	3,611	3,370	2,888	13,785

2) 生産者積立金の積立額

品 種	契 約 頭 数 (頭)	積 立 単 価 (円)	積 立 額 (円)	負 担 区 分 (円)		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	516	2,200	1,707,600	853,800	426,900	426,900
	477	1,200				
褐毛和種	—	—	—	—	—	—
その他肉専	5	24,400	270,800	135,400	67,700	67,700
	12	12,400				
乳用種	1,737	12,700	30,680,700	15,340,350	7,670,175	7,670,175
	1,347	6,400				
交雑種・乳	5,269	5,000	36,957,800	18,478,900	9,239,450	9,239,450
	4,422	2,400				
計	13,785	—	69,616,900	34,808,450	17,404,225	17,404,225

3) 生産者補給金交付状況

(単位：円、頭)

区 分	保証基準価格の品種区分		黒毛和種	その他肉専	乳用種	交雑種・乳	合 計
平成 27 年 1 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 27 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 6 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 27 年 7 月 1 日 ～ 平成 27 年 9 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 27 年 10 月 1 日 ～ 平成 27 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
合 計 平成 27 年 1 月 1 日 ～ 平成 27 年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-

2 肉用牛繁殖経営支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

肉用子牛生産者補給金制度を補完し、子牛価格が発動基準を下回った場合に支援交付金を交付することで、肉用牛繁殖基盤の安定に努めた。

1) 支援交付金交付状況

区 分	品種区分	交付対象		支援交付金交付申請	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付申請額 (円)
平成 27 年度 第 1 四半期 (平成 27 年 4～6 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 27 年度 第 2 四半期 (平成 27 年 7～9 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 27 年度 第 3 四半期 (平成 27 年 10～12 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
平成 27 年度 第 4 四半期 (平成 28 年 1～3 月分)	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-
合 計	黒毛和種	-	-	-	-
	褐毛和種	-	-	-	-
	その他の肉専用種	-	-	-	-
	合 計	-	-	-	-

3 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

(独) 農畜産業振興機構) 公益

1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

4 肉用牛肥育経営安定特別対策事業（（独）農畜産業振興機構）公益

肉用牛肥育経営は、もと畜の導入から肥育牛の出荷まで一定期間を要し、かつ、生産費に占めるもと畜費の割合が大きいことから、もと畜価格と枝肉価格の水準によっては大幅な収益性の悪化が懸念される。

このため、契約生産者積立金及び独立行政法人農畜産業振興機構からの補助金をもって肥育安定基金を造成し、肥育牛補填金を交付することで肉用牛肥育経営の安定に努めた。

平成27年度 肉用牛肥育経営安定特別対策事業 補填金交付状況

期間	品種区分	交付対象		肥育牛補填金	
		人数 (人)	頭数 (頭)	単価 (頭/円)	交付額 (円)
4 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	17	398	28,800	11,462,400
	小計	17	398		11,462,400
5 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	15	268	24,700	6,619,600
	小計	15	268		6,619,600
6 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	45	617	10,600	6,540,200
	乳用種	19	356	12,900	4,592,400
	小計	64	973		11,132,600
7 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	54	692	18,500	12,802,000
	乳用種	0	0	0	0
	小計	54	692		12,802,000
8 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	0	0	0	0
	小計	0	0		0
9 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	49	752	2,300	1,729,600
	乳用種	0	0	0	0
	小計	49	752		1,729,600

10 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	0	0	0	0
	小計	0	0		0
11 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	0	0	0	0
	小計	0	0		0
12 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	0	0	0	0
	小計	0	0		0
1 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	16	370	1,100	407,000
	小計	16	370		407,000
2 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	19	372	10,500	3,906,000
	小計	19	372		3,906,000
3 月期	肉専用種	0	0	0	0
	交雑種	0	0	0	0
	乳用種	13	305	17,500	5,337,500
	小計	13	305		5,337,500
合計	肉専用種	0	0		0
	交雑種	148	2,061		21,071,800
	乳用種	99	2,069		32,324,900
	小計	247	4,130		53,396,700

VI 調査研究及び研修に関する事業

1 乳用種初生牛の経営に関する調査事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜産を取り巻く厳しい情勢の下、乳用後継牛及び肉用素牛の確保を図る上で、良質で安定した乳用種初生牛の生産が課題にあるため、乳用種初生牛の生産費用等について、酪農家10戸を対象に調査を行った。

2 敷料（主におが粉）利用実態調査（（公社）中央畜産会）**その他**

最近、敷料として利用しているおが粉については、価格が高騰していることや供給不足により入手が困難になるなど、畜産経営における生産コスト上昇や良質な堆肥生産に影響を及ぼすことが懸念されている。このことから、今般「敷料（主におが粉）等の利用実態に関するアンケート調査」を実施した。また、おが粉代替敷料利用に係る現地調査を実施した。

- ・調査票の送付戸数、酪農20戸・肉用牛（繁殖）5戸・肉用牛（肥育）10戸・養豚10戸、計45戸
- ・現地調査、酪農1戸・養豚1戸

Ⅶ その他

1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業 その他

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（船橋ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを開催した。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加しPR活動を実施した。

2 千葉県養蜂協会関連事業 その他

(1) 養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

(2) ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

(3) 販売対策事業

千葉県畜産フェアへ出展し、消費者へ養蜂や蜂産品に対する理解を深めた。（平成27年10月24日、船橋競馬場）

また、千葉県畜産賞「三里塚特別競走」の副賞として蜂蜜を提供した。

（平成27年11月10日、船橋競馬場）

(4) 蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

(5) 養蜂技術研修事業

日本農薬株式会社 坂井厚志氏を講師に招き、「ダニの生活環と日農アピスタンの使用・耐性について」ご講演いただいた。

また、アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス株式会社 筒井優子氏を講師に招き、「アピバールの有効使用の方法について」ご講演いただいた。（平成28年3月23日、館山市 安房自然村）

(6) 防疫対策事業

ダニ駆除薬（アピスタン、アピバール）を共同購入し、会員に配布した。

(7) 養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

3 馬事畜産振興推進事業 その他

- (1) 平成27年9月11日 船橋競馬場会議室において平成27年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を開催し、平成26年度事業報告及び収支決算、平成27年度計画及び収支予算について審議・決議した。

- (2) 平成27年10月24日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、ブックレット等の配布を行い地方競馬の普及啓発を図った。
- (3) 平成27年11月10日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

4 ナイス・ポーク・チバ推進協議会関連事業 その他

養豚経営の安定強化と産業の振興を図るため、生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成のための青年部等の活動に対し、協会として生産者の活動を支援するため事務を取り扱った。

実績

- ① イベントでの消費者交流により県産（国産）豚肉の消費拡大推進
- ② TPP大筋合意を踏まえ、その対策のための情報交換会開催
- ③ オーエスキ病清浄化のための要請と清浄化の推進
- ④ サポーター会員制度による県産（国産）豚肉のPR推進
- ⑤ 関東ブロックによる養豚振興のための情報交換参加
- ⑥ ネパール地震被災支援のための募金活動
- ⑦ 組織強化のための会員加入推進
- ⑧ 生産性向上のための講習会、研修会の開催
- ⑨ 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の推進による会員加入指導
- ⑩ （一社）日本養豚協会（JPPA）との連携活動
 - ＊ TPP交渉における差額関税制度の堅持と厳格運用の要請
 - ＊ TPP交渉対策として各種決起大会・集会に参加
 - ＊ TPP大筋合意を踏まえ緊急要請
 - （1）養豚経営安定強化、（2）チェックオフ制度の確立
 - （3）輸入豚肉を利用した中食・外食に対する原産地表示
 - ＊ 衛生管理基準に基づく防疫対策強化のための要請
 - ＊ トレサビリテイーの推進に関する要請
 - ＊ 養豚におけるクラスター事業参加に向けた要請
 - ＊ 国産豚肉消費拡大推進イベントへの参加

5 千葉県自家検定推進協議会関連事業 その他

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業 その他

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に

設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等の55名（内3賛助団体）で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援等、事務を取り扱った。

- ① 情報交換会として、総会終了後、参加者全員から1分間のショートスピーチをいただき、日頃思っていること、経営内容の紹介、あるいはT P Pの状況等多方面にわたる意見・情報の交換を行った。
- ② 研修会として、本年度は県内視察研修会を実施した。今回はひふみ養蜂園・千葉県酪農のさと・道の駅保田小学校の視察を行った。6次産業化に取り組むひふみ養蜂園では、蜜蝋キャンドルづくりの体験をしたり、カフェではちみつ料理をいただいたりした。
- ③ 消費者交流として、千葉県畜産フェアに出展し「ミルクくずもち」の製造・無償配布をした。多数の県民・消費者がレディースのブースにいらっしやり、「おいしい・作ってみたい」と大好評、レディースネットワークの紹介文と「ミルクくずもち」のレシピを多くの方が持ち帰った。

7 N P O法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業 その他

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立したN P O法人の会員は、団体含めて83名となった。

当畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をN P O法人に委託、または協力を得て実施した。

- (1) 畜産経営支援事業
 - ・畜産情報収集・提供事業 ・農場H A C C P 認証普及推進支援対策導事業
 - ・農場H A C C P 認証審査体制基盤緊急整備事業 ・馬獣医療実態調査
 - ・野生獣衛生体制整備緊急対策事業 ・千葉県エコフードコーディネーター設置事業
 - ・死亡牛の受入及び保管等補助業務
 - ・ちば農商工連携事業支援
- (2) 人材情報システム運営及び団体事務受託
 - ・ちばフェルミエチーズネットワーク事務
 - ・県農業大学校畜産関係非常勤講師派遣
- (3) 消費者交流・動物情操教育事業
 - ・千葉県畜産フェア「馬とのふれあい」ブック配布、「畜産何でも相談コーナー」設置。千葉県畜産フェアで消費者を対象とした農場H A C C P に関するパネル展示、アンケート調査の協力

8 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会関連事業 その他

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稲わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、平成23年度に設立された「千葉県肉

用牛損害賠償請求生産者会 会長 山崎 巖」の事務局を平成２７年度も引き続き行い、県の指導と下記支援団体の協力を得て賠償請求を行った。

なお、平成２５年８月分をもって肉用牛の逸失利益の賠償が終了し、平成２５年９月分から平成２７年６月分まで放射能検査に係る費用の賠償に移行した。

次いで、検査に係る検体重量分も損害賠償の対象となることが決定したため、下落率方式から第１７次請求分までを遡り請求し、その第１回と第２回分の一部を請求した。

また、第１８次請求から検体代と検査料を合わせた請求を実施した。

<支援団体>

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、
千葉県配合飼料価格安定基金協会〔千葉県全日本畜産経営者協会〕、
一般社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、
横芝光町（東陽食肉センター）、
県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）

（１）請求状況

請求次	請求者数	請求金額（千円）	請求日
１	９９	４４７，４４１	平成２３年１１月１５日
２	１０９	５６２，２２６	平成２３年１２月２８日
３	１２２	１，０１４，６０３	平成２４年 ３月３０日
４	１３８	６７７，２７５	平成２４年 ９月 ５日
５	９４	３２８，０６２	平成２４年１０月１７日
６	９４	７５，７９４	平成２４年１１月２６日
７	１１４	１１２，４１７	平成２５年 ２月２２日
８	９９	５６，４３４	平成２５年 ５月２２日
９	９３	２８，３０２	平成２５年 ８月２６日
１０	６６	８，６０９	平成２５年１０月２１日
１１	９３	１４，０６３	平成２５年 ３月１１日
１２	５７	６，０９１	平成２６年 ５月１９日
１３	６６	７，８５０	平成２６年 ８月２７日
１４	７６	７，５３３	平成２６年１１月２７日
１５	８０	１０，３５９	平成２７年 ２月２６日
１６	６２	６，７８４	平成２７年 ６月 ５日
１７	６８	７，４４７	平成２７年 ９月 ３日
１８	７５	１１，８０７	平成２７年１１月３０日
検体１－１	１９	１５，６１５	平成２８年 ２月２６日

19	72	14,333	平成28年 4月14日
検体1-2	19	13,175	平成28年 4月20日
検体2-1	35	6,286	平成28年 5月 6日
計		3,432,506	

※第6次請求から肉用牛の肥育に係る請求方法が積上方式から下落率方式へ変更され全国統一の様式となった。

第11次請求から17次請求まで検査料のみの請求となった。

第6次請求から第17次請求までの検体重量分が請求の対象となった。

第18次以降は検体代と検査料を合わせた請求へ移行した。

検体代の請求はかなりの年数を遡り作成しているため事務量が多い。このため、請求のあった生産者がある程度まとまった段階で請求することとし、区分のためハイフンを付している。

(2) 支払状況

請求次	支払者数	支払金額(千円)	支払完了日
1	99	420,152	平成23年12月30日
2	109	534,553	平成24年 3月30日
3	122	1,134,984	平成25年 2月21日
4	138	673,651	平成25年 2月21日
5	94	324,433	平成25年 4月 2日
6	94	84,811	平成25年 8月23日
7	114	110,045	平成25年11月11日
8	99	55,088	平成25年11月11日
9	93	27,847	平成25年12月12日
10	66	8,542	平成26年 1月 8日
11	93	14,088	平成26年 8月 8日
12	57	6,091	平成26年 7月22日
13	66	7,850	平成26年10月28日
14	76	7,533	平成27年 1月19日
15	80	10,347	平成27年 5月27日
16	62	6,780	平成27年 8月11日
17	68	7,447	平成28年 4月11日
計		3,434,242	

※支払完了日は各請求次における最終支払者の日付である。

(3) 請求対象期間

請求次	期 間
1	平成23年 7月 8日～平成23年 9月30日

2	平成23年10月 1日～平成23年11月30日
3	平成23年12月 1日～平成24年 2月29日
4	平成24年 3月 1日～平成24年 5月31日
5	平成24年 6月 1日～平成24年 7月31日
6	平成24年 8月 1日～平成24年 9月30日
7	平成24年10月 1日～平成24年12月31日
8	平成25年 1月 1日～平成25年 3月31日
9	平成25年 4月 1日～平成25年 6月30日
10	平成25年 7月 1日～平成25年 8月31日
11	平成25年 9月 1日～平成25年12月31日
12	平成26年 1月 1日～平成26年 3月31日
13	平成26年 4月 1日～平成26年 6月30日
14	平成26年 7月 1日～平成26年 9月30日
15	平成26年10月 1日～平成26年12月31日
16	平成27年 1月 1日～平成27年 3月31日
17	平成27年 4月 1日～平成27年 6月30日
18	平成27年 7月 1日～平成27年 9月30日
検体1	平成24年 8月 1日～平成26年 9月30日
検体2	平成26年10月 1日～平成27年 6月30日
19	平成27年10月 1日～平成27年12月31日

※第2次以降の請求については、未請求・請求漏れを含む場合がある。

9 チバザビーフ協議会関連事業 その他

(1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

【チバザビーフ知名度向上対策事業】

①推進活動

総会・研修会（平成27年7月16日、成田ビューホテル）及び理事会・専門部会（4月、6月、8月、9月、12月、1月、3月、計7回）を開催した。

また、東京食肉市場まつり2015（平成27年10月24日、東京都中央卸売市場食肉市場）の視察を行った。

②広報活動

千葉県畜産フェア（平成27年10月24日、船橋競馬場）への協賛、チバザビーフ枝肉共励会・前夜祭（平成28年2月22日、東京 第一ホテル品川シーフォート）でのPR活動等を行った。

また、各銘柄でのチバザビーフPR活動の支援を行った。

【チバザビーフ肥育技術向上対策事業】

①枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年1回（平成28年2月23日）

〈出品頭数〉黒毛和種 42頭、交雑種41頭 計83頭

枝肉研究会 年2回（平成27年7月1日、11月11日）

〈出品頭数〉黒毛和種 26頭、交雑種34頭 計60頭（7月）

黒毛和種 23頭、交雑種37頭 計60頭（11月）

10 チバザポーク販売推進協議会関連事業 その他

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

①連絡会議の開催

県産豚肉の知名度向上のための連絡会議を年3回開催した。

②農場HACCP講習会の開催

安全・安心な豚肉生産を図る為、農場HACCPの講習会を開催した。